

1 題材名 「社会の中の問題を考えよう～救急車は有料化にすべきか～」

2 題材について

(1)【場面設定】：「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を生じる問題」を扱う内容

生死にかかわる人の命を救うための「救急車」のみんなが納得する使い方について考えてみよう。

①「救急車をタクシー代わりに使っている」現状に向き合って考える。

2013年の消防白書によると、2013年の救急搬送車は半数近くが軽症患者だったという報告がある。実際救急車を要請する人の中には、バスや電車が動いてない夜間に自力で病院に行くのは少し難しい、でもタクシーを呼ぶお金はもったいない、夜間診療している病院が近くにないかを調べるのも時間がかかる。そこで自分の「判断の基準」で、救急車を呼んでいるケースがだんだん増えている。実際救急隊員への取材においても、24時間勤務体制で臨んでいる中で、一日の救急車の要請件数の1/10は、上記に記載した自分の「判断の基準」での救急車の要請であり、救急隊員の方の判断は、救急車を呼ぶべき程の病状ではないとのことであった。しかし罰則規定が無いために救急隊員がたとえ軽傷と判断しても病院に搬送する義務があり、「他の本当に緊急を要する患者のもとへ一刻も早くかけつけることへの妨げにもなっている」との回答であった。皆で考えたいことは、文京区民22万人に対して、緊急事態の要請に対応できる救急車の台数はたったの4台である。約5,5万人に対して1台しか救急車は用意されていない。交通事故・脳梗塞・心筋梗塞といった命にかかわる病気で真に緊急を要する患者の要請で出動するはずの救急車を自分の「判断の基準」でタクシー代わりに使った「軽症患者の場合」は、使用料をとるべきだという「救急車有料化論争」が新聞でも取り上げられていることを考えたい。

② 多様な「判断の基準」から様々な立場の人が幸せになれるような「判断の基準」に高める。

世の中には様々な立場による様々な「判断の基準」(価値観)が存在する。その「判断の基準」(価値観)のぶつかり合いの中で、妥当性のある社会認識をふまえた、市民として必要な「判断の基準」を生み出していくことを大事にしていきたい。様々な立場の人が幸せになれるような「判断の基準」とはどのようなものなのか、政治的主体としての市民として必要な「判断の基準」を考えたい。

3 学習指導計画 (7時間目/全8時間)

- 0時：校舎内にある消防施設について調べ情報交換し、他にもないか探しその意味について考える。
- 1時：もし、お茶小が火事になった場合について、消防隊員になったつもりで、消防計画を立てる。
- 2時：消防計画を紹介し合い、実際はどこの消防署から何台来て、どこに配置されるのかを考える。
- 3時：22万人対して4台しかない救急車の使い方について、真剣に考え、話し合う。
- 4～6時：問題に対する現状を調べ、様々な資料や声を集めたり、保護者へのインタビューや街頭インタビュー等、収集した資料を基にした話し合いを通して、「判断の基準」と正対し再構築していく。
- 7時本時：論点を絞り根拠を基に問題に対する話し合いを通して、問題の「争点」について考える。
- 8時：多くの「判断の基準」と正対させ、自分の考えをまとめさせ「判断の基準」を広げ深め高めさせる。

4 本時について 本時のねらいと予想される本時の展開

予想される子どもの姿	留意点
<p>○本時の課題を確認する。【救急車は有料化にすべきか】</p> <p>○根拠(資料)を基に自分の考えを述べたり、友だちの考えに対して質問したり、反対意見を述べたりしながら話し合いを進める。</p> <p>★有料化すべき：重い患者さんのみに使用できることは、助かる命が増える可能性がある。毎年2兆円もの予算を投じている税金の改善が計れる。</p> <p>★有料化すべきでない：有料化によって重い患者さんが、救急車を呼ぶことをためらうかもしれない。金を払ったのだからと、今までよりもっとひどい人が増えるかもしれない。</p> <p>○今日の話し合いから、重要視した「判断の基準」を基に、自分の考えを書く</p>	<p>・多様な「判断の基準」の中から、様々な立場の人が幸せになれるような「判断の基準」を考えさせていく。</p>

□授業後の話し合いで話題にしたいこと 多様な「判断の基準」から、様々な立場の人が幸せになれるような「判断の基準」に高めるための、教員の役割は適切だったか。